

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 8 年度彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森検討協議 会会議
開 催 日	令和 8 年 7 月 3 日（金）
開 催 時 間	午前 1 0 時 0 0 分開会 ・ 午前 1 1 時 4 5 分閉会
開 催 場 所	こもれびの森 会議室 1 ・ 2 ・ 3
会 長 の 氏 名	久保木 孝夫
出 席 者 の 氏 名・出席者数	久保木 孝夫、山下 貴幸、情野 雄太郎、柴山 利幸、 浅井 嘉一、中内 良助、工藤 己之助、馬場 章、 藤沼 伸也、島村 哲也 1 0 人
欠 席 者 の 氏 名・欠席者数	戸田 恵美子 1 人
説明員の氏名	環境課 主任 松原 直美 環境課 主事 岡村 尚毅
事務局職員の 職・氏名	環境課 課長 本村 剛士 環境課 課長補佐 吉川 隆志 環境課 主査 今泉 和也 環境課 主任 松原 直美 環境課 主事 岡村 尚毅
その他会議出 席者の職・氏名	藤井 栄一郎市長
会 議 次 第	1 開 会 2 委 嘱 3 あいさつ 4 議 題 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 令和 7 年度事業報告について (3) 令和 8 年度事業計画について (4) ふるさとの森にかかる消耗品購入について 5 そ の 他 6 閉 会

配 布 資 料	会議次第 資 料 1 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森検討協議 会名簿 資 料 2－1 令和7年度白岡緑と土の会事業報告書 資 料 2－2 令和7年度白岡緑と土の会事業報告書 詳細 冬のつどい写真（R7年度事業報告写真） 資 料 3－1 令和8年度白岡緑と土の会事業計画 資 料 3－2 令和8年度白岡緑と土の会事業計画 詳細 資 料 4 令和7年度彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの 森にかかる消耗品等購入一覧
---------	---

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
今 泉 主 査	1 開 会 会議を開会
藤井市長	2 委嘱書の交付 藤井市長から委員に対して委嘱書の交付を行う。
藤井市長 今 泉 主 査	3 あいさつ 藤井市長からあいさつ 委員紹介 環境課職員紹介
今 泉 主 査	4 議 題 (1) 会長及び副会長の選出 議事の進行は、彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森検討協議会設置要綱第6条第1項の規定により、「会長がその議長となる」となっているが、会長が決まっていないことから、会長が決まるまでの間、本村課長が議長を務めさせていただく。
本村課長	会長、副会長は、委員による互選となっている。いかがするか。
浅井委員	事務局に腹案はあるか。
今 泉 主 査	久保木委員に会長、浅井委員に副会長として御協力願いたい。
本村課長	事務局から案の説明があった。意見はあるか。
出席者一同	異議なし
本村課長	異議がないので、会長に久保木委員、副会長に浅井委員とすることに決定する。
久保木会長	久保木会長からあいさつ

浅井副会長	浅井副会長からあいさつ (藤井市長は退席) (久保木会長が議長となり、議事を進行)
久保木会長	(2) 令和7年度事業報告について (3) 令和8年度事業計画について 議題(2)令和7年度事業報告について及び議題(3)令和8年度事業計画について、それぞれ関連があるため、一括して議題とする。 事務局から説明を求める。
松原主任	資料2及び資料3に基づき説明
久保木会長	事務局からの説明が終了した。 何か質問はあるか。
出席者一同	特になし
A 委員	ないようなので私から提案させていただきたい。 我々は何を目的として森を管理するのかを話し合いたいと思う。管理に携わっている人ならわかると思うが、疲れ、汚れ、きつい思いをしてまで管理をする最終的な目的はなんなのだろうか。
B 委員	もともとこの検討協議会が最初にできた時に、最初に会長を務めさせていただいた。その時に、どう使っていくのかということで色々な決議を取らせていただいた経緯がある。 その決議の中では、1ヘクタールしかないこの場所なので、色々な、例えばそこで何か施設を作ったりそういうふうな施設になることは難しい。ただ保存保全していただくだけではやりがいを感じることも色々できないので、人が学べる場所という形で、エコリテラシーだとか、今の言葉で言うと、そういうものをできる場所、自然教育とかそういうものに触れられる場所として、ずっと続けていったらいいのではないかというこ

B 委員	とで、皆さんの賛成をいただいたという経緯がある。 これは前回も変わっていくたびにお話させていただいて、基本的にはこのところのものは、一応知っておいてほしいというような形である。
A 委員	その辺がわからないとこれからの方針が決まらないと思う。課長はどのようにお考えか。
本村 課長	私としては数少ない森の一つであるので、そういったところを子どもたちに環境学習会などを開いて、自然の大切さや、そういったものを学んで欲しいとは思っている。そのために、皆さん大変でしょうけど維持管理をしていただいて、そういったものも含めて子供たちに何か伝えていければなと思っている。
A 委員	それは目的ではなく手段だと私は思う。それだと2, 3回作業に来てそれ以降は来なくなってしまう。だからこそ究極な目的はなんだと思うのか。
今泉 主査	事務局としては、先ほど課長からあったように、まず、管理する立場としては、誰が来ても危険のないように、そこで安心して過ごせるという環境を作ることが目的になると考える。そこに来た人にとっては森林浴のような形で、少しリフレッシュする時間が目的であったり、何の木があるか、植物があるかといった自然観察が目的の人もいると思う。そこで休憩をする人がいるのも認識している。 また、B 委員が関係している幼稚園の子どもたちが来て自然に触れ合うのも一つかもしれない。人それぞれの使い方があるが、そこに入るときに枝が落ちていたり、木が倒れていたり、荒れた状態でいると来てくれる機会を逃してしまうと思うので、そうしないようにしていくことが事務局としての目的だと考えている。

B 委員	では市は管理をすることを応援してくれるという認識で問題ないだろうか。
今泉主査	その認識でかまわない。
B 委員	所有者と市と管理団体のそれぞれ三者協議ができる場所で、どんな方針でいくか、どう思っているか皆さんの意見を伺いたい。
久保木会長	それでは、C 委員からお聞かせ願いたい。
C 委員	話を聞いて、きれいに管理されていて、市民がいろいろな使い方をしている緑だということが分かった。 緑のトラスト地という保全活動を月 1 回程度、職員が代わる代わる参加をしていて、そこで皆さんの意見を伺うと、活動に参加されてる年齢が徐々に上がってきてしまって、高齢化で担い手が不足しているということを知った。自然に触れ合う機会を作って、活動にも関わってもらえるような、管理やイベントをしてもらえればと思う。
久保木会長	D 委員はどう考えているか。
D 委員	散歩がてらに家から近いから行くが、中に入るというよりは自然を感じて気持ちがいいとは思う。
久保木会長	E 委員はどう考えているか。
E 委員	より良い環境で先人たちが維持管理してきた。人間にとって必要なのは交通などが便利になるだけでなく、心の拠り所のようなものが森にはあると思う。これを僕らの子や孫の世代まで守っていく、そういうのが現代生きている我々の義務、そういう思いで維持管理していただきたい。 例えば放置されたら野生の動物が住み着いて、生活環境を乱す。それによって被害が出るので維持管理をしていく。そういう思いを住民の大体の方が思ってくれれば、参加者も少しずつ増えていくと思う。

久保木会長 F 委員	では F 委員はどう考えているか。 子どもたちにこのような森の存在、その自然の良さをより知ってもらうためにも森の環境整備の必要性を感じた。木の大きさを含めて色々管理が大変だと感じた。あとは場所的な問題もあり、子どもたちと歩いていくというのは難しい場所と感じた。トイレの問題もあり、いろいろ考えたが、この豊かな自然を子どもたちに知ってもらいたいと思った。
A 委員	やはりトイレ問題は深刻であると思う。 一年中トイレの設置はできないのか。なぜ恒常的な水洗トイレの設置をすることは不可能なのか。
今泉主査	以前、久保木会長から仮設トイレでも設置してもらえたらと話があった。その際に久保木会長が夏の暑い時期は森に行くことはほとんどないと意見があったので夏場を除いて仮設トイレを市で契約をして設置するようにしている。皆さんの意見を踏まえてになるが通年でということであれば、対応できるように努力する。 恒常的な水洗トイレについては都市公園ではないことや、浄化槽の整備などがあり現実的ではないと思う。
A 委員	仮設トイレでいいので一年中使えるようにして欲しいと思う。
久保木会長 G 委員	では G 委員はどう考えているか。 学びというところでは机上では学べない体験が大事だと思う。ひこべえの森は市内で身近に自然を体験できる貴重な場だと考えられる。昔はそこら中に自然があった。 私は山登りが好きで自然を感じたければ山に行くが、必ずしも市民の皆さんがそうではなく、身近にすぐに行ける場所が大事だと思う。なのでこれからも白岡市内で貴重な自然を体験できる場として、ずっと保

G 委員 久保木会長 吉川課長補佐	全していただきたいと思う。 事務局の方はどう思っているか。 埼玉県の実業であったが、貴重な空間やいろいろな生物を観察する、馬場委員からあったように心をいやすことも必要だと思う。
岡村主事	次世代にそれを継承していかななくてはいけない。そういった事業を白岡市がやっていくために、あくまで目的はそういった空間を保全して継承していかななくてはいけないことだと思う。
松原主任	何回か行ったが、雑草が茂っていたりすると入りたくないと感じる人は思うと感じた。木々から緑を感じたいとなっても、寄ってみたい、入りたいと思ってもらえるような草木が繁茂しすぎている状態であることが大事だと思う。
久保木会長 H 委員	自然に親しんでいない人でも入っていけるようにするためにも見通しが大事だと思う。向こう側が見えたり、光があると安心すると思う。ここ数年で伐採など変わってきたと思うので、現状維持で地元の緑を感じることができる場所として、このまま残していけたらと思う。
H 委員	H 委員はどう考えているか。 人も自然も健全な姿でいることで、人も自然の一部なので人も自然も含めすべてが共生する場所、社会を作る。それ故に、環境保全は先ほどあったように、動物が増えすぎるのもよくない、かといって人が自然を壊していくのもよくない。そこのバランスのような、人が住んでいる中での自然というのは、そういった形での保全にするべきもの。壮大な森ではなく、小さな森だからこそ考え方があり保全していく必要があると思う。

H 委員	申し訳ないが A 委員の話を聞いていて、懸念がわかりにくいように感じる。だから皆の意見が A 委員の期待する回答になっていないと思う。管理が大変だというのは理解している。その管理をどうやって継続的に人を集めて、続けていくことが課題であるといったほうがいろいろなアイデアが出てくると思う。抽象的な話になってくると難しくなりすぎると思う。それであれば、議題としてきちんと用意して考えてもらったほうがいいのではないか。
A 委員	それはそれでいいが、私は今どう思うのかを議論をしたいと思っている。口論ではなく、議論としてしたいので、どんどん言ってほしい。
久保木会長	では、I 委員は考えているか。
I 委員	A 委員がいう森を管理する理由というのは、私個人的な意見としては、人間が生きるために必要なのが森だから人間はその森を管理する責任があると思う。森というのは空気を作ったり、人間が食べるものを作ったり自然がないと人間は生きていけない。それを人間は生活の良い環境にしようと森を破壊していく。それは人間の生活に支障のないように共存していくためにどうしても道路を作ったり、建物を作ったりして森を破壊せざるを得ない状況が続いてると思う。 どういうふうにその森を守っていくかということを考えると、人間はもう少し、森のおかげで生きられているということを実感することが一番大事ではないかと思う。それを感じることによって、人間は森を守らなきゃいけないという認識をして、自ら森を守る活動なのだと思う。 白岡は自然に恵まれていて自然環境はとてもいいところで自然には不自由していない。

I 委員	よく都内は自然活動をしてボランティアが集まる、それは都内の森が少なくなり、生きづらく感じてボランティア活動をしていると思う。なので白岡の森を守るのと都内の森を守るというのは全然違う。森を守るというよりは、森を好きな人たちが集まって保全していくというニュアンスのほうが当てはまると思う。森を守りたい人たちが森を楽しく保全していきましょうという考えが A 委員の思いと以前伺った。 私は苦勞して森を守るのならなかなか続かない、なので森を愛する人たちが森に行って作業をしたい、汗をかきたい、自然を感じたいという人たちが集まって森を保全していくのが一番理想だと思う。 そこを例えば市に押し付けて予算を求めたり、ボランティアの人を募って活動をするというのは、私はちょっと違うのかなと思う。あくまで森が好きな人たちが自ら足を運んで、好きな森を守っていくというスタンスで人を集めるべきだと思う。
J 委員	私もみなさんの意見を聞かせていただいて、長い間で森にお世話になっている一人として、子どもたちが伸び伸びと遊んでいる姿がそこに来て自然を愛しているということが一つ。年に一回かもしれないが大きなイベントが開かれ、そこに集まる人たちの表情、会話を聞くにつれて、白岡に必要な森はこれなのではと思う。適宜な森の管理でいいと思う。適宜という言葉が非常にあいまいだが、危険があってはまずいので、ある程度守られた森、小さな子が飛んではねてもできるようなもの、道や広場を兼ね備えたひこべえの森をイメージしている。熊の問題のような自然があまりにも自然のままだと熊の方が平気なわけだから、人間がやられてしまう。

J 委員	ひこべえの森は非常に自然豊かでこんな街の中に、こんな森が守られているということだけでも貴重な財産だと思う。
A 委員	このように素晴らしい会議なので、年に 1 回だけではなく、年に 2 , 3 回、四季を通じて行う価値があると私は思っている。
J 委員	先ほどトイレの話があったが、私の意見としては離れたところでもいいので、必要であればあったほうがいいと思う。 駐車場も考えようによってはあればいいと思う。さまざまな要求があるが、そんなことはこれからの宿題であって、予算などが厳しいと思うが頭に置きながら森を森としてぜひ守っていただきたい。
B 委員	今話してきた内容でだいたい、次世代のことや心のこと、貴重な場所であること、自然と共生、環境とエコリテラシーとかそのような話が出てきた。そのようなものはこの中ではだいたい一致してきていると思う。それが今回の協議会で確認できたことが大きな前進だと思う。その中で使い方として、自然と出会う機会を持ちたいからとあの中でバーベキューをしよう、キャンプをしよう、他のマルシェで集まって使おうというような普通の都市公園と同じような考え方になるのはその貴重さを分かっていないことによる間違いだと思う。そのことを考えると便利なところと便利でないところはもちろんあるが、今できることはたくさんあると思う。 実際自分たちの今年の幼稚園の卒園生は、どうしてもひこべえの森で卒園式をやりたいと言っていた。何とか無理いってお願いして行っただが、彼らにとっては原風景で、母親にとっても、友達にとっても、その前

B 委員	に卒園した子にとっても、これからの子にとっても人生のひっかかりになる。そういう思い出ができる場所が他ではなかなかできないことだと思う。幼稚園の子は危険な虫とそうでない虫を見分ける、そうして付き合っていくことが当たり前に生態系、エコリテラシーとつながる。 自分たちのことを尊重することを学べる、友達のことを尊重することを学べるということも、森の中で学べることはすごく多い。そういった場所であることを自分たちの中で、ここで共有できることが協議会の意味ではないかなと私は思う。
A 委員	私が最初に提示した究極の目的は何なのかというのはそれである。子どもたちにエコリテラシーの感覚、知識を持ってもらいたい。自然の仕組みを理解し、自然と調和した行動、そういったところを育む、子どもたちを育てるということ、百年後のことを考えられる子どもたちにしていくこと、それが私の究極的な目的。そこまで考えられると、つらい、汚れる、疲れるそういったことも乗り越えられると思う。
B 委員	エコリテラシーは生態系のことや環境意識とかそういうことだけではないと思う。さっき出てきた自分の心がほっとするとか、なくてはならない場所とか、そのような気持ちがあったように人に作用するものがある、その中で自分の大事なものができる場所だと思う。そこに一緒に出てくるから生態系のことも、緑のことも、動物のことも大事になってくる、そのことを考えるとすごい繋がりみたいなものを作れる場所、人が生きていくために必要なことだと思う。
A 委員	そういうことを考えると単なる公園ではなく、学びの場だと思う。去年の暮れに B 委員が大きなコナラを

A 委員	伐採してくれた。それを今後どうするか、枯れた木をバクテリアが分解して地中生物に、土に、昆虫にと循環を考えた時に木が教えてくれる非常に貴重な学びの場だと考えられる。
J 委員	これからの子どもたちにとっても白岡にそういった環境があることを残したいし、伝えていきたいと思うので皆さんの知恵を拝借したいと思う。 冬の集いの写真があらわしている気がする。子どもたちが、みんなが集っている。こういった人のつながりがある森でこれだけの人たちが集まって会話ができるというのがすごく大事だと思う。
B 委員	今、人が育つとか、教育の話も少し出てきたと思うが、実際今の教育環境の中でよく聞くとと思うのが、不登校の問題、学校環境の問題、かなり多くのことがあると思う。そのところでつらい人たちがたくさんいるなかで、そういった人たちに H 委員たちがやっているその活動のサードプレイスとして、その人たちも森のことをいい場所だと言っている。 こうして議論を重ねていくと抜けていってしまうのが現状の問題点で、次世代の大事な意味で、世代交代というのはそうやって行われて行かなければならない。 今回、話のズレがあったが、それぞれの話だと思うので、そこでどんなことをやっていこうという建設的にしていくことがすごく大事だと思う。その中で今日のことを無駄にしないためにいっぱい出てきた言葉を確認したという形で、みんなで一致している意見ではあると思います。市のバックアップしようという気持ちを私はすごく感じている。なのでうまく重ね合わせていっていい方向に進んでいくことを望む。

A 委員	話にあったように市の方でこうしてバックアップしてもらえることには非常に感謝している。それをもっともっと高めてほしい。 それとは別に人をどうやって集めるか、チラシを配ったりインスタグラムを使ったりはしているが、それに長けた人は知り合いにいないだろうか。
J 委員	2 人いい人がいるのでご紹介する。
今 泉 主 査	議題(4)ふるさとの森にかかる消耗品購入について事務局から説明をする。
岡 村 主 事	資料 4 に基づき説明する
	昨年検討協議会で話があり、消耗品とは別にバッテリー式の草刈り機を 1 台購入予定である。それに伴い消耗品の今年度予算は半分になる。
今 泉 主 査	意見等がないようなら、ここで会議を終了とさせていただきます。
A 委員	今日は議論らしい議論ができたと思う。今後も議論を深めていきいろいろな意見を出してもらえればと思う。
	5 その他
今 泉 主 査	最後に何か意見や質問はあるか。
G 委員	生涯学習課から今年度のひこべえの森冬の集いの日程について報告する。
	今年度は 12 月 12 日土曜日に実施する予定である。ご協力をお願いします。
今 泉 主 査	他に何か意見や質問はあるか。
委 員 一 同	なし。
	6 閉 会
今 泉 主 査	会議を閉じる。

	以 上
--	-----